

いしや先生

町おこし映画顛末記

あべ 美佳

久しぶりに心の底から拍手を送りたくなるような映画を見つけた。熊本県天草市牛深の町おこし映画「女たちの都ーワッゲンオッゲン」という作品だ。シネスイッチ銀座という由緒ある劇場で初日舞台挨拶があり行ってきたのだが、その登壇者が凄かった。主演の大竹しのぶさん、松田美由紀さん、杉田かおるさん、中村有志さん……等々。「これ、本当に町おこし映画だよね？」と隣の人に確認したくなるぐらい豪華な俳優陣が並ぶ。

こう表現してはなんだが、単なる町おこし映画が歴史ある劇場で「かかる」ことにまず感動したし、満員御礼の座席に感動し、俳優陣が口にした町の人たちに対する感謝の言葉でさら

に感動し、見終わってから作品の内容にまたまた感動した。上映後、拍手がやまない。この日、1回目〜4回目の上映のたび、拍手が沸き起こったとのこと。…それって、どれだけ凄いことだが、わがりますか？

この映画、総製作費は1億円。「志田周子の生涯を銀幕に甦らせる会」の我々がまさに目標としてい

共通の「成功イメージ」

る金額だ。いやあ、良いタイミングで、良いお手本が見つかった。きつと、わが故郷の皆さんは今、映画ができることによって人間がどんなふうになるのかイメージが湧き切っていない。皆、応援はしてくれ



るし、進捗具合が気になる。撮影期間は約1カ月。その間、俳優さんたちは毎晩深夜までスタッフと意見を戦わせていたとのこと。セリフ、キャラクター、カット割りに至るまで、いっさい妥協せずこだわり抜いた。「牛深の皆さんが、こん

ちよべつとお伝えしましょう。「女たちの都ー」は、東京上映に先駆けて、地元先行上映があった。なんと6万人のお客さんが劇場に足を運んでくださったそうだった（ちなみに銀座にも来ていました）

！。撮影期間は約1カ月。その間、俳優さんたちは毎晩深夜までスタッフと意見を戦わせていたとのこと。セリフ、キャラクター、カット割りに至るまで、いっさい妥協せずこだわり抜いた。「牛深の皆さんが、こんな頑張っているのだから私たちはそれに恥じない演技をしなければならぬ。外部から来てイイとこ取りみたいな映画を作ってはダメなの」との、ある女優さんの発言がきっかけだった。

「私たちが見えていないところでも、たくさんの方の手が関わっていること、ちゃんと感じていました。ありがとうございます」それが弁当のおかずが寂しいねえと言つて、刺し身をもつてきてくれた方、忘れません！

「120億円かけてつくった誰も使わない橋より、この映画が地域の皆さんの力になると思います」。舞台挨拶で、そんな毒を交えて笑わせる方もいた。すっかり牛深のファンになり、撮影後プライベートで遊びに行つた女優さんが、そこでプライベートで来ていた監督さんにはつたり会つた。…なんてこともあったとか。私だつてこの映画を見て、牛深という町に行きたい！と強く思ったのだ。繋がっ

て、広がって、また集まる。映画にはそんな力がある。とはいえ、この映画も資金集めは大変だったそうです。脚本を読み、感動した1人の女医さんが1千万円をばーんと寄付してくれてから、一気にお金が集まったとか（ほの女医さんに会って、広がり、また集まる。映画にはそんな力がある。とはいえ、この映画も資金集めは大変だったそうです。脚本を読み、感動した1人の女医さんが1千万円をばーんと寄付してくれてから、一気にお金が集まったとか（ほの女医さんに会

とまあ、こんなふうには皆さんを刺激してききました。この映画はあくまで成功例。官と民が分裂したり、町と制作サイドが喧嘩したり、そもそもさつぱり面しやぐない映画になったり…というケースも私は見えてきた。んだが、良いことだけを言つつもりもない。んでもよ「さんねね」ごは、さんねねだ。どうせやるなら、私はなるべく皆の手がかかった、温かくて人間くさい「お神輿」を作りたい。多少いびつでもよ。皆さん、どげだべつ？

（脚本家・作家、尾花沢市出身）

11月1回掲載します